令和５年度大学・附属学校園連携事業推進経費　成果報告書

所属名	総合教育系 附属池田小学校
研究課題名	児童が育つ学習評価のあり方の実践的検討 ―附属池田小学校における形成的評価改善の取り組み―
研究課題概要	本研究では、附属池田小学校での授業研究過程を通して、学校現場において教師自身が持つ**自らの実践に対してもつ「問い」を深める過程を明らかにしていった**。日本の授業研究は国際的に高い評価を得ているが、授業研究の中で教師の学びがどのように深まっていくのかについては、往々にして暗黙知のままで言語化されていない。授業「研究」というと、授業に関する仮説の設定－教育的介入－効果検証という流れが想起されがちであるが、授業研究に関する先行研究では、自然科学における仮説－検証型ではなく、**教師が「問い」を立て**（例：授業におけるAという働きかけが子どもにとって価値があるのではないか）、**目の前の子どもたちの姿に応答しながら「問い」そのものを変容させつつ、授業に対する理解・解釈を深めていく授業研究の可能性**が示唆されている（たとえば渡辺貴裕（2020）「『仮説－検証』という呪縛」石井英真編『流行に踊る日本の教育』東洋館出版社）。このような先行研究に学びながら、本研究では、日本における伝統的な授業研究――学校として共通の年間テーマを設定し、それぞれの教師がそれを解釈して研究授業を行い、各種校内研修等を通してテーマと授業への解釈を深める協働的な実践―――において教師が「問い」を深めていく過程を描き出す。本研究は教職大学院や公立学校における授業研究のあり方に示唆を与るものである。
研究課題の構成員（リーダーに※）	森本　和寿(総合教育系) 池住　祐亮(以下附属池田小学校)※ 工藤　健司 末廣　彩華 大貫　翔貴 澤田　崇明 萩谷　桃子